

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産・・・建物附属設備は定額法、建物附属設備以外は定率法による
無形固定資産・・・定額法による

(2) 引当金の計上基準

・退職給与引当金

職員の退職給付に備えるため、当期末における要支給額の内必要と認められる額を計上している。

(3) リース取引の処理方法

・ファイナンス・リース取引

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

(5) 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、仮払金、未収入金、前払金、未払金、預り金、借入金を含めて
いる。なお、前期末及び当期末残高は、下記5に記載するとおりである。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	30,000,000	0	0	30,000,000
小計	30,000,000	0	0	30,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	4,509,586	8,411,990	0	12,921,576
事業継続安定化資金	6,000,000	0	6,000,000	0
小計	10,509,586	8,411,990	6,000,000	12,921,576
合計	40,509,586	8,411,990	6,000,000	42,921,576

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対 応する額)
基本財産				
定期預金	30,000,000	(1,130,000)	(3,066,136)	(25,803,864)
小計	30,000,000	(1,130,000)	(3,066,136)	(25,803,864)
特定資産				
退職給付引当資産	12,921,576	—	—	(12,921,576)
事業継続安定化資金	0	—	—	(0)
小計	12,921,576	—	—	(12,921,576)
合計	42,921,576	(1,130,000)	(3,066,136)	(38,725,440)

- 4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高（直接法により減価償却を行っている場合）
 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物付属設備	4,288,545	1,676,102	2,612,443
機械器具	11,840,458	11,702,108	138,350
什器備品	7,018,698	5,454,161	1,564,537
ソフトウェア	1,390,332	607,649	782,683
合計	24,538,033	19,440,020	5,098,013

- 5 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科目	前期末残高	当期末残高
現金預金	8,583,169	11,093,108
仮払金	80,278	0
未収入金	10,294,752	9,265,540
前払金	517,308	627,128
合計 (A)	19,475,507	20,985,776
未払金	2,339,979	3,727,549
預り金	3,432,937	3,437,335
借入金	0	0
合計 (B)	5,772,916	7,164,884
次期繰越収支差額 (A) - (B)	13,702,591	13,820,892